

取組事例の名称		釜下水路浚渫工事
概要	対象	水路
	種別	<input type="checkbox"/> 救援 <input checked="" type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	規模	施工延長：1,300m 施工数量：1,750m <sup>3</sup>
	実施会社	株式会社 ピーエス三菱
	実施場所	宮城県石巻市
	発注者	石巻市

1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称

名称：エコチューブ工法

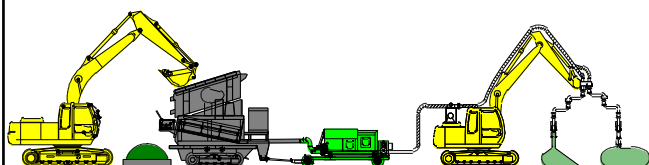
津波による瓦礫と土砂で閉塞した水路を回復するため浚渫を行う。浚渫土砂はエコチューブ用袋に充填し、脱水養生後、浸水・冠水箇所への盛土材、埋土材として有効利用することができ、早期の復旧が可能である。

2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果

- ・津波被害地域において、閉塞水路の回復と浸水・冠水地域への盛土としての有効利用を同時に行うことができる。
- ・狭小地での用水路など、生活環境に密着している箇所において簡易に施工が可能である。

(写真、イラスト)

浚渫土充填概要図



浸水・冠水地区への盛土としての有効利用例



取組事例の名称	釜下水路浚渫工事
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦勞した事柄・教訓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾、河川などに堆積している砂が多く含まれており泥土圧送時に配管内での閉塞が想定された。しかし、処理時に堆積粘性土と混合攪拌処理することにより問題なく圧送ができた。</li> <li>・周囲が雨などにより冠水するため、自走式の設備とした。</li> </ul>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな水路が回復し、地元からも喜ばれている。</li> </ul>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂分の多い土砂に対する圧送技術の省力化</li> <li>・袋体への充填量増加を通じたコスト縮減</li> </ul>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石巻市では災害対応の有効な工法として採用されたが、他地区での採用においては苦勞している。今後は有効な工法を水平展開させるための計画が必要であると感じた。</li> </ul>	
NETIS登録	KT-020065-V